

県教委「こども園視察」

就学前教育充実へ

就学前教育・家庭教育の一層の充実に向け、小野寺俊教育長ら県教委関係者が24日、笠間市金井の同市立かさまこども園を視察した。就学前教育・家庭教育は本県教育行政の最重要テーマで、幼児教育と小学校教育の連携を实践する同園の先進的な活動に触れた。



笠間市立かさまこども園を視察する小野寺俊教育長(中央)ら県教委関係者＝笠間市金井

視察したのは小野寺教育―就学前教育・家庭教育推進長をはじめ、県教育委員や一室の職員ら約20人。

視察では、「人と関わる力」「生活する力」「学ぶ力」の育成など同園が実践する独自の教育活動について説明を受け、子どもたちの元気な活動風景を見守った。同園内には、子育て相談や情報交換を行う支援センターや、言語などに不安を抱える子どもを対象にした教室など、特色ある施設がある。

園・幼稚園・小学校連携の新たなカリキュラム作りを目指しており、同園と笠間市で先進的に取り組む実践例を学んだ。今後も県内の幼児教育施設の特色ある活動を視察する方針。

小野寺教育長は「素晴らしい幼児教育の現場に触れ、とても参考になった。具体的なイメージを持って議論し、今後のプラン策定に生かしたい」と話した。

県教委は就学前教育・家庭教育を本県教育行政の基本方針「いばらき教育プラン」の最重要テーマに位置付け、本年度、教育長直轄の組織として同室を新設。幼児期に育ってほしい子どもの姿や今後の県の取り組みを定めた「就学前教育・家庭教育推進ビジョン」の具体化に向け、今後のプラン策定に生かすため、初めて現場視察を行った。(朝倉洋)

クロスアイ
HPに動画

